

悦びへの伝言

www.jomaca.join-us.jp/dengon.pdf

やまとことばの声への、悦びのため、
旧かなにて、書かせていただきます。

意識

人間には、自然治癒力が、ある。
なにもせず、それが働くことはない。

体内に、注意する。快か、不快か。体内が、調和してゐるか、ゐないか。生命の理、生理にしたがふ、悦び。

この悦びを、意識して、四六時中、瞬間瞬間にて、求めつつける。からだところの健康、こころと社会の平和、健康平和な生活の道を、求めつつける。

生理にしたがふ、悦びの道を、四六時中、瞬間瞬間にて、求めつつける、意識。求道の、意識。これこそが、自然治癒力を、全開してゆく。

求道の、意識により、冥想しつつ、生活する。

この数千年間の地球は、この冥想生活が、無い、迷ひの時代であつた、のである。

基本、この数千年間を否定し、野性の冥想に、帰れ。

中途半端な、規範、学問、祈り、慣習こそが、生理を混乱させ、自然治癒力を、閉とぎしてきた。

基本、この数千年間を、否定する。

この数千年間の地球は、特異な時代に、すぎなかつた。諸民族が、鬭争しあひ、富民と貧民が、鬭争しあふ、特異な時代。体内に注意し、生理にしたがふ悦びこそが、失念された。迷ひの時代であつた。

しかし、この数千年間に、長所もある。建築と、運輸と、金融と、通信が、発達した。人間社会が、統一されかけてゐる。

今、不足してゐるのは、悦びへの、提案。この数千年間の、過渡期を、活かす提案。数千年前の、あちこちの、部族内でなく、全地球にて、冥想生活をしあふ、悦びの連帯への、提案。

今の、通信大企業たちも、まだ、過渡期のうちにあり、その、最終なのです。次の社会への、意識転換が、要る。アルゴリズム（機械手順）は、問題を解決できぬ。問題を解決するのは、ひとりひとりの、冥想生活。生理にしたがふ、悦びへの連帯。そのための、まうひとつの通信です。

導きの糸

生活には、六面がある。

姿勢動作。呼吸。食事と排泄。人間関係、とくに異性関係。精神。生活環境。生活には、苦しみ悩みがある。生理にしたがふ、悦びの道としては、苦しみ悩みこそが、導きの糸。快か、不快か。体内が、調和してゐるか、ゐないか。快を、求める。体内の調和を、求める。無を、求める。不快が無いを、求める。体内の不調和が無いを、求める。

姿勢動作は、これでよいか？ 呼吸は、これでよいか？ 食事と排泄は、これでよいか？ 人間関係、とくに異性関係は、これでよいか？ 精神は、これでよいか？ 生活環境は、これでよいか？

基本、自身の、四六時中、瞬間瞬間の、冥想にて、生活修正の道を、発見しつづける。この数千年間の、迷ひの時代の、中途半端な、規範、学問、祈り、慣習に、とらはれるな、はからふな。解脱せよ。

自身の、受精ないし生誕から、死まで、自身の体内も、社会環境も、自然環境も、変化しつづける。変化に対応し、生理にしたがふ、悦びの道として、生活を、不断に、修正しつづける。不断修正人生こそが、自然治癒力を、全開しつづへ。

個性別の、苦しみ悩みこそを、導きの糸として、必ず感謝し、生活修正の道を、発見しつづ、個性別に、楽しみ悟りに、接近する。これのくりかへしが、人生である。

ひとりひとりの冥想生活、不断修正人生を、伝へあふ。健康平和な生活の道とは、どういふものか？ 悦びへの伝言を、寄せあひ、今からこそ、まともな、規範、学問、祈り、芸術、養生を、創出してゆきあふ。生理にしたがふ、悦びの道としての、統一人間社会は、今こそが、やうやう、出立点なのです。基本、この数千年間を、否定せよ。

生理にしたがふ、悦びの道には、確認の要点がある。呼吸は、楽か？ 脈は、とこのつてゐるか？ 気分は、よいか？ 安眠も、工夫します。

体内に、注意し、生理にしたがふ、悦びの道を、へ生理化くと、呼びませう。

労働と休養

通信の発達により、社会が個人に、解体される傾向に、ある。求道意識の、冥想生活、これによる、自己管理が、ますます、重要となる。

その上にて、生産を、再編してゆへ。

生活は、労働と休養の、くりかへしです。

社会は、労働力と、商品と、貨幣を、仲立ちとし、おたがひの生活こそを、

生産しあつてゐる。生活の生産、といふ本質に、帰れ。そして、もちろん、おたがひの、健康平和な生活の道、これをこそ、生産しあはう！

生産の再編、社会の再編、です。この数千年間の、迷ひから、解脱せよ。

生活の、休養面と、労働面から、家庭、同好会、職場を、あらためて、求道意識の、協会、といたしませう。

家庭を、恋愛と出産と保育と教育といふ、特殊な労働、それと、生活の休養面、これらのための、協会とする。求道意識にて。

同好会といふ、休養協会を、考へる。職場は、生産性のため、分業労働、分業認識が、避けられない。生体と認識に、偏りが生じ、生理を混乱させる。職場の分業労働、これを修正する、保健的な労働、また、職場の分業認識、これを修正する、保健的な認識、これらのための、休養協会を、同好会として、考へる。求道意識にて。

職場を、生活の労働面のための、協会とする。地球人おたがひの、健康平和な生活の道、これをこそ、目的とする、生産調和体。それへ向け、自由に創造してゆく。求道意識にて。

家庭、同好会、職場の、毎日。地球の諸域の、毎日。健康平和な生活の道を、求めあひ、健康平和な需要、そして、健康平和な商ひを、発見しつづける。生産は、それが、身近でも、商品などはさむ、地球連鎖でも、健康平和な、生活協力、これをこそ、めざす。求道意識にて。

希少者の、資産増殖といふ目的、それに合せ、成立してゐる、地球の供給体制の、今。大逆転しよう。健康平和な、生活協力、それに合せ、有効な供給を開発、拡大させ、無効な供給を、縮小させる。やがては、全員の、資産循環といふ目的へ、再編してゆきあふ。健康平和な生活の道へ、地球の供給体制の、本格再編。その過程にてこそ、地球環境を整備し、野性の復興をする。ICT（情報通信技術）も、ひとりひとりの、冥想生活、これをこそ支援する、便利な道具として、まうひとつの通信へ、本格再編する。

健康平和な、生活協力を、眞剣みも込め、〈聖愛〉と呼ぶことにしませう。

有効還元

労働力は、労働力自身を維持する以上の、労働量を支出できる。剰余の労働量を、集積させていただく工夫が、経営競争の本質でした。その傾向を、諸国家とくに諸軍事・諸警察が、統制することにも、限界がある。

健康平和な生活の道への、連帯、それを成した地球民衆から、剰余の労働量集積の、有効還元を、要請しませう。

資産格差の拡大、それは、〈信用寄付〉によつてのみ、解決する。ただの寄

付では、不可。〈信用寄付〉とは、次のみに、活用されることが、保証されてゐる、寄付。健康長寿を生産しあふ、流通。野性の復興。諸民族の調和。これらです。

認識

世界の現実を反映してゐる認識、それが、現実の認識です。世界の現実を反映してゐない認識、それが、架空の認識です。ただし、人間の健康平和にとり、それが架空の認識であると、自覚した、架空の認識は、有益であることもあります。それは、睡眠中の夢や、覚醒中の芸術内容などにて、あります。

基本、健康平和な、現実の認識を、追究しあひませう。生理にしたがふ、悦びの道と、世界の現実を反映する認識、これらにより、社会がまともに、統一される。人間は、健康平和な、現実の認識、これの前に、平等なのである。

基本、この数千年間を、否定する。諸民族が、闘争しあひ、富民と貧民が、闘争しあつてきた。指導者や運営者と、民衆が、とりつくりあつてきた。病的戦争な、架空の認識にて。

民衆の生理の、必然として、闘争から、調和へ。この数千年間を、否定し、次の社会へ、入門する自覚が、これだ。人間は、健康平和な、現実の認識、これの前に、平等なのである。

健康平和な、現実の認識を、眞剣みも込め、〈眞智〉と呼ぶことにませう。

調和へ

人間が、地球の諸域に、対応ないし適応しつつ、諸民族に分化し、闘争してきた。少しは、調和もしてきた。この伝統における、認識の理の必然と、生理の必然と、物理の必然、これらを、冷徹に、理解していく。さういふ、民族地理学の本質論を、発達させる。さうしつつ、まともな、諸民族調和への道を、創造してゆく。それへ向け、出発ませう。諸民族性には、存在理由があつた。まづ、それを尊重しあふことから、出発する。

諸民族調和へ、日本民族が起点となる、理由がある。主に、日本列島の、特異な自然環境が、原因だが、日本民族の原点に、国家発生以前、一万年以上の、平和な縄文時代がある。部族国家発生後、この数千年間の地球、すなはち、諸民族闘争などの、特異な時代を、相対化しうる、平和性の原点が、日本民族には、ある。日本民族の伝統を、反省し、諸民族の調和へ、仲介のあり方も、創造する。まづ、日本民族の野性の復興、これの表明として、〈縄文るねっさんすく〉を、提唱いたします。

公共

この数千年間の地球にて、建築、運輸、金融、通信が、発達した。今、通信大企業などは、諸国家を、ふりまはすほどと、なつてゐる。しかし、生理にいたがふ悦びの道、ひとりひとりの、冥想生活を支援するのは、まさに逆。ひとりひとりの行動を、監視して制御し、大きな利潤を獲得する。そのための、アルゴリズム（機械手順）の開発に、とらはれてゐる。

また、米国医療などは、中途半端な、化学研究や、遺伝研究などに、とらはれ、実質、自然治癒力といふ本質を、失念してゐる。

今の通信も医療も、要は、健康平和な生活の道にとり、有効な供給体制では、ありませぬ。

諸国家や、国連などでもなく、次の社会へ提案する、まうひとつの、公共。これを、数千年間の迷ひの最終に、民衆から、民間から、育成する。

諸民族の調和へ、資産循環の調和へ、地球公会の創出が、どう可能か。

すでに述べた、独白語を、結ぶ。へ生理化のため眞智にて聖愛へしあふ、へ縄文ねっさんすくを、へ信用寄付くとともに、育成しませんか。その方向の、思索と情念の集りへ。いよいよ、「次の別の地球へ夢なかま」に、なりませんか。

なほ、それでも、地球人は、宇宙にて、後進生物にすぎませぬ。

ひとりひとりの、求道意識から、覚醒し、協同する。地球公会の、創出意識まじり。

この数千年間を、否定し、未来にある地球協同へ。未来への、安心を。次の社会への、大欲を。

病的戦争な、現代社会を、自然に、治癒させあひませう。

まづ、この、へ悦びへの伝言くを、どんどん、どんどん、ひろめていただけませんか。まともな、求道の実行は、そのあと、時間をかけて、まじりぞ。

令和四年正月吉日

JOMON(縄文)あか데미校長 山田 学まなぶ ©

arigatou@image.ocn.ne.jp